

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自らの生活の場であると実感できるようなケアを目指している。	ホームの理念を職員は十分理解しており、入居者に関わる際には理念を意識しながら取り組んでいる。ケアプラン会議や毎日の申し送りなどで具体的な支援について確認したり話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加やホームで開催する夏祭りを地域住民と交流する場として参加頂いている。	ホームは地域行事への参加や近所づきあいに積極的に取り組んでいる。定期的に来訪し入居者と交流している各種ボランティアや福祉系学生の実習の受け入れをしている。また、朝夕敷地内の私道を行き交う住民が時折足を止め入居者・職員と言葉を交わすなど地域との交流は日常的で当たり前に行なわれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人では地域との交流施設建設を企画している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議が行われている地域の方からの意見を取り入れて今後に活かしている。	昨年度の課題であった同じ法人のグループホームとの合同運営推進会議に関しては参加メンバー等の理解や協力により別途実施しており改善されている。会議録は今後、地域や入居者家族らに公表する方向で考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1回、安心相談員の派遣があったり運営推薦会議等で参加の包括支援センター職員や市の職員の方々に実状理解して頂ける様努めている。	市の担当部署には運営推進会議議事録やホーム便りを届けている。また分からないことや問題などがあれば、その都度、連絡や相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「拘束委員会」より学ぶ機会があったり身体拘束をしないケアに努めている。	職員は「身体的拘束その他入居者の行動を制限する行為」の具体的内容を理解しており、日々「拘束のない、しない」ケアを実践し入居者が自由に気持ちよく過ごせるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や日常的なケアの中で話し合い、防止に努めている。		

グループホームコスモス長野・1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターの協力、相談を求めながらそれらを活用しながら支援できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い理解、納得を図っており変更などある場合はその都度説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の折に近況を伝えながら意見や要望が言える様な環境を心がけている。	毎月、生活の様子を個々の家族等に文書で報告し、またホーム便りに写真入りで伝えている。家族会は年4回あり、運営推進会議にも代表が参加し意見・要望を伝えている。意見箱は設置されているが活用されたことはなく、家族等は気軽に声を掛け話していくことが多い。勤務体制の見直しで職員の異動等もあり、職員の名前が家族等に分かり易くなるような方法を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回に職員会議を開き意見や要望、提案事項を聞いている。	管理者は職員が何でも気軽に言える関係作りに努めている。毎月の会議や日々の話し合いで職員から意見や提案を聞く機会があり、そこでの声を運営に反映させている。職員体制が変わり毎月の会議の議題も多いことなどから会議内容を見直す方向である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談や自己評価等々で職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修もあり段階に応じた育成の取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域の同業者や施設内のGHとの交流で活動や研修を行っている。		

グループホームコスモス長野・1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	求めているサービスを見極めながら不安な事や要望に耳を傾けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接で困っている事や要望を充分に聞いてあげれるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な話し合いの中で困っている事を最優先し必要なサービス利用が出来る支援を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で支えあったり学んだり共に過ごす中で楽しい時間を共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などに一緒に参加してもらったり本人の好きな物を持って居室で雑談したり散歩したり日常を共にすることもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話での連絡支援や手紙の支援時には家族と外出したりする。	一人ひとりのかけがえのない馴染みの人たちや場所との関係が入居後も継続できるように積極的に取り組んでいる。家族と馴染みの場所に出かけたり、友人の訪問を受けるなど入居者は生き生きと生活できている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い人達との話し合い席や入浴等コミュニケーションできる場作りをしたり関わりを大切に出来る支援に努めている。		

グループホームコスモス長野・1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても家族が顔を出してくれたり又こちらからも面会を行ったりしながら関係性を保つ努力をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	要望、意見を取り入れながら意見に添うよう努めている。	本人らしく生活できるよう職員は声を掛けて思いを確認したり表情からも読み取っている。把握が困難な場合は家族等からの情報を参考にしながら皆で話し合いをもち、本人本位に検討するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の状態を知り本人や家族とコミュニケーションを図りながらこれまでの生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別ケアを大切にしながら本人の出来る事はして頂きADLの維持に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の中から望む暮らしを把握し本人と共に介護計画の作成の話し合いをしたり現状に合った計画に努めている。	介護計画は本人や家族の意向を基に計画作成者が職員の意見や気づきを参考にしながら作成している。定期的に評価、見直しが行われている。状態や意向などが変わった場合には直ちに見直し、現状に即したものに作り変えている。入居者の情報はセンター方式を活用し詳細に把握されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りの徹底や情報を共有しながら実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族のお見舞いや自宅に戻り病気の夫の面会支援等々本人の希望をなるべく叶えられる様努めている。		

グループホームコスモス長野・1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり畑でとれる作物を収穫できる支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族・本人の希望、病気の状態によって主治医を決めるが実際には同法人の医師を主治医としている方が多い。	定期的に医師の往診や看護師の訪問があり入居者の健康や体調管理が行なわれている。入居者が服用している薬に関しては効能や注意事項などを把握し注意を払っている。入居者の心身に異常や変化があれば医師や看護師に連絡・相談している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が週1回、体調管理。緊急時や不調時にはすぐ対応して頂き、又隣に併設されているクリニックも応援体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを	入院時には必ず職員が付き添い情報提供を行い更に入院中はお見舞いに行き経過や状態の把握に努め退院後の相談に乗っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した指針を説明し了解を得たり個々に面談しながら意向や要望を取り入れるよう努めている。	契約時にホームの方針を説明し、本人や家族の意向を確認している。状態に応じ医師から家族に説明が行われ、状況が変わるたびに話し合いが行われている。「重度化に関する指針」、「看取りに関する指針」があり職員教育も行なわれている。入居者自ら自身の迎える最期について職員に話しかけ語り合うこともある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修をしながら初期対応の訓練をするのが定期的に行えるよう今後努力し実施していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施したり地域消防団の方にも運営推進会議に参加頂いて協力体制を築いてる。	消防署の指導の下、ホーム独自の避難誘導や通報訓練、消火器の取り扱い方など防災訓練を年2回実施している。今年度スプリンクラーが設置され、また長年の要望であった2階からの避難階段も取り付けられた。トラッキング現象防止策の検討を定期的に行なったり、夜勤者が火元点検を毎日行うなど火災予防に日々取り組み安全確保を図っている。	夜勤帯は職員数が日中と違い少ないので避難誘導や救出方法を更に具体的に話し合い、入居者に対しての万全の策を講じられることを望みます。

グループホームコスモス長野・1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴時、入退室時など本人のプライドを傷つけないような声かけ誘導を心がけている。	サービス提供時には一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーに配慮しながら支援している。馴れ合いから相応しくない対応があれば個人的に注意を促したり会議で話し合い徹底に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	テーブルを輪にして話し易い環境にしたり意思決定が出来にくい方は表情をくみとりケアに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	気分や体調に合わせた生活が送れ自分のペースで一日が遅れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装や外出時に身だしなみを支援したり入浴時に衣類の交換に心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事作りの準備や希望の献立を聞いたりしながら個別の好みに料理したりに努めている。	食事の準備は入居者の力量に応じながら一緒に作っている。旬の食材を使った季節料理や入居者の好物なども取り入れながら食事への関心や楽しみな時間が持てるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録があり水分不足の方には個々に応じた工夫で摂取できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアや義歯の清浄を行い自力で出きる方は見守りをする等徹底されている。又内部研修も行い口腔ケアの大切さをスタッフも理解している。		

グループホームコスモス長野・1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を付けてトイレ誘導して失敗をなくすように努め日中は布パンツで過ごすように支援している。	一人ひとりの排泄パターンやサインを全職員が把握しており、排泄の失敗防止に取り組んでいる。夜間はリハビリパンツやパットを使用しているが、多くの入居者は日中布パンツで過ごしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や適度な運動、食べ物等心がけチェック表で排便の確認を行い必要に応じた排便の対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気分に合わせたり仲の良い方との楽しみの場になるように支援している。	ゆっくりとくつろいだ気分で入浴出来るように一人ひとりの意向に沿いながら支援している。入浴を嫌がる入居者にはタイミングをみながら声がけするなど工夫している。入浴日は各階で決まってはいるが、二つの階が協力し合うことでいつでも入浴が可能となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や様子観察しながら休息をして頂いたり日中の活動や適度な運動で安眠が出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送りや服薬の仕分けに間違いのないよう確認作業や情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のできる役割作りの支援や好きなことや楽しみを知り生活の意欲につながる様努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節によってお花見、ドライブ、紅葉狩りや親しい方への訪問等家族と協力しながら支援している。	入居者一人ひとりの意向に沿った個別支援や日々の屋外散歩で気分転換をしている。また、四季折々、ドライブがてら出かけては自然を満喫する機会を設けている。「今日は天気だから出かけた」、 「今日はどこかに行きたい」等、急な意向であっても各階で協力し合い出かけている。	

グループホームコスモス長野・1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかいを預かり本人の希望する物を一緒に買物に行ったり使用できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら手紙や電話をかけたいと希望があり支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生花や貼り絵などで季節感が味わえるように努めている。	入居者等が一日の多くを過ごす共有空間には季節の花を配置したり、馴染みのある年間行事の飾り物を飾ったり作ったりしながら居心地良く過している。壁には入居者と職員が協力し合って作った大作のお月見の貼り絵が飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子等々を置き気軽に会話が出来たり居室の戸を開放し利用者同士が行き来できている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅や家族を忘れないようにと居室に写真を置いたり思い出の品物を持って飾ってくれる家族もある。	自宅から持ってきた家族写真、家具、元気な頃に手掛けた作品などに囲まれ、入居前からの生活習慣が継続されその人らしく安心して暮せるような環境づくりに配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に個別の表示をしたり配膳用のお盆に名前や絵で見て分かる工夫をしている。		